



【 幼児教育・小学校教育接続推進事業 】

- 本年度、本校は、富山県教育委員会から委託を受け、**幼児教育と小学校教育の円滑な接続**を目指し、実践や研究に取り組んでいます。
- 保育園児はそれぞれ主体性を発揮して、**活動に没頭**します。保育士が「さあ、終わりましょう。」と言っても、「**まだやりたい!**」と言って、活動を続けたいという意欲に満ちています。それが、小学校に入ると、受け身になってしまう傾向があります。遊びや活動を通して学ぶ幼児教育と、教科の内容を理解したりできたりする必要がある小学校教育では、異なる面が多くあります。だからと言って、幼児教育で培ってきた子供の主体性が、小学校に入って一気に弱まるという現状は、子供にとってよいことではありません。**幼児教育で培ってきた資質を小学校教育でうまくつなげることが、絶対に必要**です。
- それを解消するための一つは、教師の「**問いかけ**」です。保育園等では、保育士は、「～～をします。」「～～しましょう。」と直接的な指示はされません。園児がそうしたいと思うような環境づくりに努めておられます。それが、大きなヒントだと思います。
- 井波小学校では、「**教師の心構え**」の一つとして、「**問いかけよ（指示しない）**」という理念があります。「どうする?」「どうしたい?」と子共に問いかけ、子供が**自己決定**するように働きかけます。そして、教職員が定期的に自己チェックする体制をとっています。
- 26日（金）の午後から、「幼児教育・小学校教育接続推進事業」の公開授業を行います。1年生活科で、1年生が年長児と秋のおもちゃで遊んだ交流会を振り返る授業です。講師は、松本謙一教育長です。砺波地区の小学校や保育園等からも多くの方が来られます。実り多い学びの場となることを祈っています。

